

病院機能評価

病院機能評価とはその病院の運営管理や医療提供体制の整備状況について評価を行うものです。第三者機関である“日本医療機能評価機構”が審査を行い、その認定の有効期間は5年です。今年は丁度その更新のための審査を受ける年になっておりますので、私も赴任して5年目を迎えることになります。

認定には「患者中心の医療の推進」、「良質な医療の実践1」、「良質な医療の実践2」、「理念達成に向けた組織運営」の4つの領域について病院組織全体の運営管理および提供される医療についての評価が行われます。前回の審査では、医療面においては医療安全管理者の研修機会の提供について、インシデントレポートの報告書式を統一すること、クリニカル・パスの運用件数が低い、退院サマリーの期限内作成率が低い、指示受けのルールづくりの統一など多岐にわたる指摘がありました。また組織運営面については人材配置に関して複数の部門において業務量からみた人員の不足感がある、職員の有給休暇の取得率が低いなどの指摘をいただきました。

病院機能評価を受けることで病院内の問題点が明らかとなりますし、日常業務の改善点を改めて認識すること、次の5年後にむけた宿題をいただくという効果があります。当院においては病院老朽化もさることながら職員の高齢化もすすんでいます。またここ数年は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う人員の配置などで、職員の負担は増加してきています。医療・介護を受ける側、提供する側にもやさしい病院づくりのためにも、全体としての業務効率化、業務負担の偏りの是正は継続して取り組むべき課題のひとつだと思います。現状の人員体制で増加する業務をこなすには医師以外の医療専門職(看護師・薬剤師・放射線技師等)にも事務補助を付けるという考えもあると聞きます。

病院機能評価が業務内容の見直し、効率化の実現、現場からの負担軽減のアイデアをいただく機会となり、長く従事できる職場づくり、ひいては“住民のため”の病院づくりの推進力になるように活用できればと思います。



副院長
佐々木 俊雄

シリーズ

医療最前線

人生100年時代を迎え、わが国は超高齢社会に突入しました。今後は「エイジレス社会」をめざして高齢者雇用の促進とそのための方の生涯にわたる健康づくりの推進が重視されています。

現在の制度では75歳で人間ドックの補助はいったん終了しますが、当院のような人間ドック学会の会員施設では高齢受診者の数は増加しております。

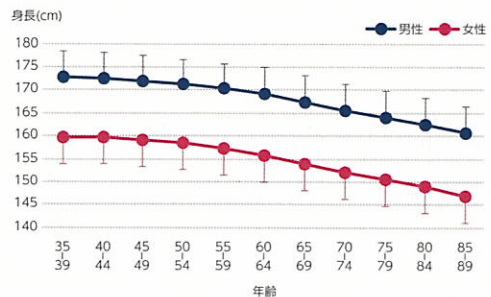
2018年から日本人間ドック学会では、これからの高齢者の皆さまの健康管理への一助とすべく、約200万人のデータベースを基に「高齢人間ドック受診者 指導の手引き」を作成しました。

今回はその手引きの中から、測定の簡単な身長、体重のグラフについてご覧いただき、そのほか不安になりがちな検査項目についてご紹介します。

身長

身長の変化は、姿勢の悪化や骨折などの可能性があります。25歳時の身長より4cm以上の低下は椎体の骨折リスクが上昇(2.8倍)するといわれています。

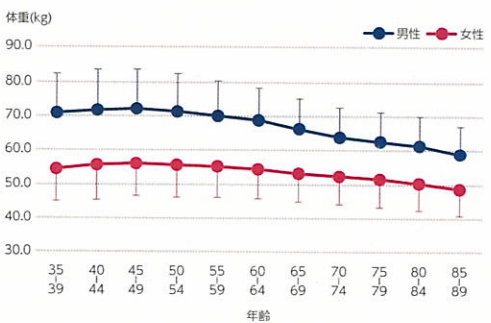
カルシウムやビタミンDをバランスよく摂取して食生活の改善が必要です。



グラフ1 身長 (グラフ題)性・年齢区分(5歳刻み)の身長の平均値、標準偏差

体重

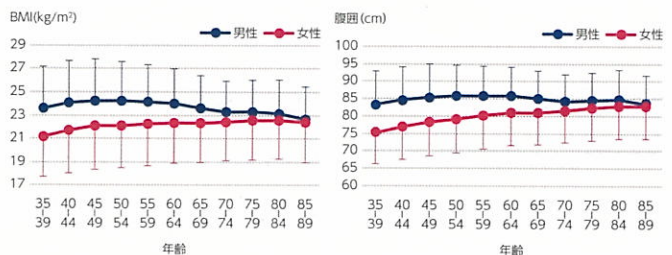
体重の減少は栄養状態の悪化を示す場合があります。6か月で2~3Kg以上の体重の減少は要注意です。フレイル(加齢によって心身が老い衰え、社会とのつながりが減少した状態)の危険因子とされています。



グラフ2 体重 (グラフ題)性・年齢区分(5歳刻み)の体重の平均値、標準偏差

BMI、ウエスト周囲長(腹囲)

BMI (体重÷身長÷身長: 70歳以上は21.5~24.9が目標範囲)は体重と身長から計算される指標です。



グラフ3 BMI ウエスト (グラフ題)性・年齢区分(5歳刻み)のBMI、腹囲の平均値、標準偏差

No.53

高齢者の人間ドック



健康管理部 医長
尾畑 昇悟

骨粗しょう症など身長が低下があるとBMIは急に大きくなりますが、これは肥満ではありません。

また腹囲については、体型の影響もあり、高齢者の場合は参考程度です。

減量によって大事な筋肉も減少するおそれがありますので、運動も行うようにしましょう。

◆そのほかの指標

血圧

年齢とともに血管が硬くなり、血圧は徐々に上昇します。家庭での血圧測定を習慣にしましょう。食欲が低下しない程度の塩分の減量を心がけましょう。

聴力

年齢とともに聴力は高い音域から聞こえづらくなります。喫煙、糖尿病、肥満などの生活習慣病の危険因子はそのまま、難聴の危険因子です。

アルブミン

アルブミンは血液の中にあるたんぱく質です。肝臓で生成され、栄養状態や肝臓の機能を表します。高齢者では低くなりやすいです。

クレアチニン、eGFR

腎臓の機能をあらわす数値です。腎機能は年齢とともに緩やかに低下します。急な低下を示す場合、腎臓病の可能性があります。腎臓内科の受診をしてください。

血中脂質検査

高コレステロールを警戒しがちですが、高齢者の場合、コレステロールの過度な低下は低栄養を表す場合があります、注意が必要です。

空腹時血糖、HbA1c (ヘモグロビンエーワンシー)

糖尿病を表す数値です。年齢とともに緩やかに上昇します。HbA1cが6.5%以上は糖尿病として治療を検討します。

血色素量 (ヘモグロビン)

血液の濃さを表します。低下すれば貧血です。高齢者の貧血の原因は栄養不良が多いです。バランスの良い食事の摂取に努めましょう。

◆さいごに

今回は身近な身長、体重、BMIについて示しましたが、そのほかの検査は人間ドックで検査することができます。積極的に受診していただき、皆さまの健康管理に貢献できれば幸いです。

有床診療所

「ひまわり、大きく育ってね」

有床診療所では、中庭を活用した園芸療法を実施しています。園芸療法って何だろう、と思われる方もいらっしゃると思います。

例えば、綺麗に咲いている花を観て、「なんで、こんなところに花が咲いているのだ！けしからん」と怒る人はいないと思います。植物は、観ているだけで癒されたり、季節の花を眺めただけで懐かしい記憶が蘇るなどといった、プラスの影響を人に与えてくれます。



学術的に、園芸療法は、認知機能、精神機能および社会的機能の改善がみられることなどが報告されています。

写真には、ひまわりの種まきをしている風景があります。小さな種を観て、触れて、これからの成長を期待する…そんな中で、自然と患者さま同士、スタッフとの会話も盛り上がります。

御調町では、農業をされている方が多く、園芸療法は特になじみのある活動のひとつとなっており、リハビリテーションの中でも取り入れています。

病院や施設といった場で、ホッとひと息できる空間づくりができればと考えています。

グループホーム
「かえで」

「今日のご飯」

グループホーム「かえで」では、日頃より入居者さまと一緒に献立を考え食事作りをしています。この日のお昼ご飯は、入居者さまのリクエストでサンドウィッチを作る事にしました。お互いに「私は卵の殻をむくからね。」「うちはキュウリを切るよ。」など、声を掛け合って食事作りが始まりました。作っている途中「外で食べたら美味しいじゃろうね。」「天気もいいしね。」と言う声が聞かれたため、中庭で食



事会をする事になりました。出来上がったサンドウィッチを食べながら「今日は特においしいね。」「次は何を作るかね。」と会話を楽しんでおられました。

コロナ禍で外出する機会が減っている中ではありますが、入居者さまが笑顔で過ごしていただけるよう、今後も食事作りや畑仕事など、日々の生活が充実したものになるよう努めてまいります。

ポリファーマシー

～高齢者の薬の飲みすぎが問題になっています～

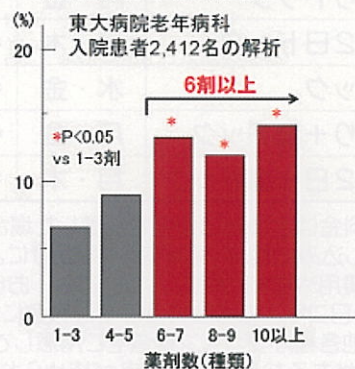
薬剤師 横田 武治

「ポリファーマシー」とはなんでしょう？まずは、このカタカナ言葉の意味を解説します。ポリは、「たくさんの・多くの」といった意味です。ファーマシーは、英語で「薬局、薬店」ですが、和製英語としては、薬自体を指すこともあります。「ポリファーマシー」を日本語にするなら、「多くの薬を使っている状態」となるのでしょうか。それでは、つづいて薬剤師の視点から、「ポリファーマシー」について述べていきます。

厚生労働省の調査によると、75歳以上で、病院やクリニックの処方を受けている方の中で、7種類以上の薬を使っている方は25%以上になるようです。つまり4人に1人となります。75歳以下の方と比べた場合、10ポイント以上高くなっているとの結果でした。この数字を見て、「案外、少ないな」とみるか、「多いな」とみるかは見解の分かれるところではありますが、10年前に東大病院老年病科から興味深いデータが発表されました。薬物有害事象の頻度と使用している薬剤の種類を調査したデータ*です。薬物有害事象とは、薬を使うことによって、期待しない有害な作用が出たことを言い、副作用などもこの範疇に入ります。この結果によりますと、薬を6種類以上使用している方は、1～3種類使用の方と比べて優位に有害事象の頻度が高かったということです。この結果から言えることは、様々な理由でたくさんの薬を「飲んでいる」、あるいは「飲まされている」という状況があるかとは思いますが、「飲みすぎ」、「飲まされすぎ」がリスクにつながる恐れがあるということです。

みなさまの療養のなかで、「運動療法・食事療法・服薬」これら3つの中で、どれが一番がんばりやすいでしょうか？生活の変容を伴うものに比べて服薬はがんばりやすいと思われませんか？ゆえに、薬に頼ってしまう気持ちが大きくなってくるともかもしれません。医師からも「薬を減らしたいけど、同意が得られない」と聞くこともあります。一方で、ここで示したような「ポリファーマシー」のことも考慮しなければなりません。ご自身で、たくさんの薬を使っていると思われた方がおられましたら、診察室で先生に「薬、減らせませんか？」と聞いてみるのも一つの方法でしょう。最後にはなりますが、薬の専門家としては、患者さまが健やかに過ごされるということを1番の願いとしています。薬を減らすことが目的ではありません。しかし、薬を減らすことによって患者さまが健やかに過ごされるという目的が達成されるなら、そのお手伝いをさせていただきたいと考えています。

1) 薬物有害事象の頻度



ポリファーマシー図

*Kojima T, Akishita M, et al. Geriatr Gerontol Int 2012「薬物有害事象の発生頻度」

人間ドックを受診しましょう!

当院の人間ドックでは、皆さまの健康を増進し発病を予防するとともに、病気の早期発見・早期治療を目指して、総合的な健康支援を行っています。

人間ドックは1日ドックと2日ドックの基本検査項目に加え、脳ドックなど各種のオプション検査を用意しています。受診日当日に医師による健診結果の説明と保健師による保健指導を全員に実施しています。また、健診後のフォローで継続的な関わりを持たせていただいています。

健康で充実した日々を過ごしていただくため、年に一度は人間ドックを受診して健康管理にお役立てください。皆さまの満足と安心を大切に、スタッフ一同笑顔でお待ちしています。



● 受診コース一覧

	健診日	所要時間	昼食	料金(税込)
日帰りドック	月～金	午前8時20分～午後2時頃まで	あり	36,300円
1泊2日ドック	月・木	午前8時20分～翌日の午後1時頃まで	あり	58,850円
脳ドック	水・金	午後1時～午後3時頃まで	—	34,100円
日帰り+脳ドック	月～金	午前8時20分～午後2時頃まで	あり	60,500円
1泊2日+脳ドック	月・木	午前8時20分～翌日の午後1時頃まで	あり	79,750円

- ・ 健診料金は全額自己負担で受診した場合のセット料金です。
- ・ お申し込みの団体(保険者や事業所)によっては、検査内容が一部異なる場合があります。
- ・ 健診費用や助成(補助)についても、お申し込みの団体にお問い合わせください。
- ・ 1泊2日コースの宿泊料金は健診料金に含まれています。
- ・ その他各種オプション検査をご用意しています。お気軽にお問い合わせください。
- 発熱があるなど、体調不良が認められる方は、後日、体調が回復してからの受診をお願いします。
- 来院時には、必ずマスクの着用をお願いします。



骨塩定量検査(骨密度測定)を受けてみませんか!

～骨量の減少の早期発見と、骨粗鬆症の適切な予防や治療について～



骨粗鬆症は、骨の量が減ってだんだん骨が弱くなり、骨折しやすくなる病気です。骨が弱くなると、少しのことで骨折しやすくなります。加齢による骨粗鬆症や、成長期や出産後などに起こることもあります。高齢化社会にともない、骨折しやすい骨粗鬆症の方が年々増加しています。検査は橈骨(とうこつ)を測定するDXA装置で、前腕を約30秒でスキャンします。橈骨は加齢による変形が少ないため高齢者の方の測定にも適しています。骨塩定量検査を行うことで、自分の骨の状態を確認し早目に診断を受け、食事や運動療法に加え、場合によっては骨を強くするお薬などによる薬物治療を早く始めることで、骨粗鬆症の適切な予防や治療を行いましょう。

年一回の人間ドックで骨塩定量検査をされてみてはいかがでしょうか。当院では、事前予約もできますが、**当日でも検査ができます。**お気軽にご相談ください。



公立みつぎ総合病院は「人間ドック健診施設機能評価認定施設」
および「日本人間ドック学会保健指導実施認定施設」です。

人間ドック・健診のご予約、お問い合わせ
公立みつぎ総合病院 人間ドック健診受付 TEL0848-76-1111(代表)

職員の紹介

公立みつぎ総合病院に入職して2年目になります。

幼い頃からなりたかった看護師になり、地元での就職。入職1年目は、安心と同時に不安も強くありました。

先輩方は分からないこと、困ったことなど丁寧に教えて下さり、病棟は緊張感もありますが、明るい雰囲気の中で安心して勤務ができています。

また他病棟の同期と話すことで勇気づけられることも多くあります。まだまだ未熟ですが、患者さまが安心して治療・入院生活を送れるよう学び続け、患者さまに寄り添った看護が行えるよう励んでいきたいと思っています。



看護師
小堀 令奈

今年の4月に健康管理部から診療録管理室に異動となり勤務しています。

診療録管理室とはあまり聞きなれないかもしれませんが、主に診療録(カルテ)の監査や保管などの管理を行っています。

その他には、がん登録や他部署から依頼された、過去の医療内容のデータ作成などを行っています。

以前の健康管理部では人間ドックなどの健診に来られた患者さまと接することがありましたが、診療録管理室では直接患者さまと接する機会はありませんが、診療録などの大切な情報を取り扱う部署として、日々慎重に仕事に取り組んでいきたいと思っています。



主事
高下 佳子

作業療法士として入職して2年目となりました。現在は、一般病棟に勤務しています。最初は、業務の流れを覚えることや患者さまとの関わり方など不安もありました。しかし、周

りの指導者や先輩方の丁寧な指導や温かい声掛けがあり、作業療法士としての役割や考え方が身につけてきていると感じます。また、患者さまには不安を抱える方も少なくないため、身体的・精神的にも寄り添った関わりができるよう心がけています。まだまだ未熟ではありますが、今後も患者さま、ご家族にとって最善のリハビリを提供できるよう尽力していきたいと思っています。よろしくお願いいたします。



作業療法士
高上 彩音

就職して2年目を迎えました。現在は地域包括ケア連携室にて先輩方やスタッフの皆さまからご指導いただきながら業務を行っています。相談員として患者さまに関わる中で、一人

ひとりの状態や置かれている環境等が様々であることを日々痛感し、当院を退院された後のご生活について少しでも不安を軽減できるよう患者さまやご家族の思いを伺いながら多職種との連携を図っています。経験を積むと同時に、今後に変化する制度や社会資源にも柔軟に対応できるよう学ぶ姿勢を持ち続けていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。



社会福祉士
坂本 侑子

訪問看護ステーション「みつぎ」

～24時間・365日安心を支える
訪問看護サービス～

訪問看護ステーション「みつぎ」では、看護師・保健師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士などの専門職が医師の指示にもとづき、24時間対応体制をとり、自宅はもとよりサービス付き高齢者住宅・グループホームなどにも訪問しています。

訪問看護では

- ① 医師の指示による点滴、カテーテル管理(胃ろうなど)・インスリン注射など
- ② 身体清拭・洗髪・入浴介助・排泄の介助・床ずれ予防や処置・薬の管理指導などの療養生活上の看護
- ③ 人工呼吸器・胃ろう・在宅酸素など医療機器管理
- ④ 小児や精神疾患・認知症などの看護
- ⑤ がん・難病など施設や緩和ケア病棟などとの連携による終末期ケア(在宅での看取り)
- ⑥ 拘縮予防や歩行、嚥下などの機能練習、在宅でのリハビリテーションなどを行っています。



人工呼吸器の管理

また、医療ニーズをかかえて退院される利用者さま及びそのご家族に向けても、病院スタッフ・地域包括ケア連携室・ケアマネジャーなど多職種・多機関などと連携して相談や訪問を行っています。新型コロナウイルス感染症の渦中、感染対策を行いながら小児から高齢者まで、安心して住み慣れた地域で生活できるよう、支援させていただきます。ぜひご相談下さい。



多職種による入院・退院支援



訪問リハビリの場面

●問い合わせ先 訪問看護ステーション「みつぎ」 TEL 0848-76-2811

公立みつぎ総合病院 ホームヘルプステーション

ホームヘルプステーションは、介護保険の訪問介護と介護予防訪問サービスを提供するとともに、障害福祉サービスである居宅サービスも提供しています。訪問介護は、利用者さまの「生活の支援」であり、利用者さまはもとより介護者の介護量軽減を図り、可能な限り居宅において自立した生活を営むことができるよう支援しています。他職種との連携を図り、利用者さまのニーズに沿い、支援を行っています。



訪問介護スタッフ

●問い合わせ先 御調保健福祉センター内 TEL 0848-76-2235

ご意見、ご感想をお聞かせください

患者さまならびに地域の皆さまと共に作成したいと考えております。ご要望をお待ちしております。

TEL 0848-77-0955 FAX 0848-77-0956

E-mail: tiiki@mitsugibyoin.com

ホームページは「みつぎ病院」で検索

発行：尾道市立総合医療センター

公立みつぎ総合病院 広報誌編集委員会